

大規模校の学校運営等に関するアンケート調査

1. 目的

他自治体における大規模校の学校運営等に関するメリットや課題、その解消に向けた取組を調査し、実現可能性を踏まえた検討につなげる

2. 調査対象と大規模校の学級数及び児童・生徒数の推移

| 小 学 校 | | | | | | |
|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 学級数・児童数 | | | | | |
| | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 令和4年度 | |
| | 学級 | 児童 | 学級 | 児童 | 学級 | 児童 |
| 板橋 | 24 | 809 | 25 | 882 | 27 | 940 |
| 港 | 37 | 1,321 | 38 | 1,339 | 38 | 1,328 |
| 世田谷 | 34 | 1,179 | 33 | 1,146 | 33 | 1,141 |
| 流山 | 47 | 1,600 | 44 | 1,482 | 47 | 1,585 |
| つくば | 53 | 1,546 | 59 | 1,715 | 63 | 1,815 |
| 習志野 | 35 | 1,167 | 37 | 1,236 | 39 | 1,274 |

| 中 学 校 | | | | | | |
|-------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 学級数・生徒数 | | | | | |
| | 令和2年度 | | 令和3年度 | | 令和4年度 | |
| | 学級 | 生徒 | 学級 | 生徒 | 学級 | 生徒 |
| 板橋 | 19 | 704 | 19 | 705 | 19 | 713 |
| 調布 | 24 | 876 | 26 | 925 | 25 | 903 |
| 町田 | 24 | 868 | 24 | 847 | 23 | 803 |
| 川崎 | 33 | 1,255 | 34 | 1,267 | 37 | 1,336 |

大規模校におけるメリット

【学習面】

1. 教科担任制の実施や交換授業など、教員の専門性を活かせる
2. 多様な意見や考え方に触れ、学年横断的な活動に取り組むことができる
3. 様々な種類のクラブ活動の設置が可能となり、選択の幅が広がる
4. 学校行事等の特別活動に活気が生じやすく、教員の役割分担がしやすい
5. 児童・生徒数、教員数が多いため、グループ学習や習熟度別学習の形態がとりやすい
6. 音楽専科や英語専科、家庭科専科、書写専科といった教員による指導体制をとることができている

【生活面】

1. 同一学年に多く教員がいることにより、組織的な指導体制を組みやすく複数やチームで児童・生徒の指導にあたることができる
2. 日常的に様々な児童と触れ合い、集団行動をとる機会が多いため、自然と社会性や協調性を身につけることができる
3. 大規模校でのクラス替えは関わりがなかった生徒と出会うことが多く、新しい気持ちで仲間を増やし、新たな人間関係を作ろうとする。その中で新たなことにチャレンジする心や豊かな心を育むことができる

大規模校におけるメリット

【学校運営面】

1. 宿泊学習への引率や授業補助などの柔軟な職員体制が構築できる
2. 学年別や教科別の教員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力が行いやすい。また、若年層においては様々な先輩方の授業を参観したり、指導を仰いだりする機会が得られる
3. 同じ教科の教員が複数在籍していることから、教員間で切磋琢磨しやすい
4. 職員数が多いことで、各学年を一つの学校のように組織化し学校運営を行うことができる
5. GIGAスクール構想（校務支援ソフトの導入）により、児童の指導記録や健康状態の把握・共有が出来るようになった

⇒ 児童・生徒の成長、教員の人材育成に関わるメリットが多い傾向

大規模校における課題及び解消に向けた取組

1. 行事で学年全体や全校が集まるスペースの確保が困難である。また、移動や集合に時間がかかる
 - ▶ リモートによる朝会、集会、学年別集会の実施、兄弟学年での交流を行う
 - ▶ 学年ごとに別日で活動する時間を設定することで一人あたりの活躍する時間を確保
2. 授業や活動を計画するうえで体育館や特別教室等の調整が難しい状況である
 - ▶ 体育館や特別教室の使用時期を学年によってずらすことで対応している
3. 様々な業務内容の周知や情報共有、共通理解の徹底に時間がかかる
 - ▶ ICT機器を活用して周知する学年主任に学年での周知を徹底させる
4. 1学年150人を超えたあたりから、職員全体が一人ひとりの児童について把握することがしづらくなってきた
 - ▶ 校務支援システムに写真を登録するとともに、指導記録を入力し共有を図っている

大規模校における課題及び解消に向けた取組

5. 職員数が多いため、副校長が行う事務処理が多い

➤ 副校長補佐が配置されているため、副校長の業務が少し緩和されている

6. 全体的な課題に対して

➤ 市費負担の学校サポート教員・指導員を他校とは別に配置している。他にも学習サポート教員・指導員など正規職員以外の教職員を配置することで、児童一人ひとりを把握し、学習指導や生徒指導にあたることのできている

⇒ 体育館や特別教室の利用調整や学校行事を行うスペースの確保のようなハード面と管理職の事務量、教員間の連絡調整や情報共有に関する課題が多い傾向